

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491500037	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵真鶴			
所在地	(〒259-0201) 神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴1819-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24名	
		通い定員	12名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	2013/1/	評価結果 市町村受理日	平成25年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者専用住宅に入所された方が、小規模多機能居宅介護サービスの契約を同時にされることで、顔見知りの関係が深まり、安心感をいただいている。 ・ 早朝（7時）からや夜間帯（20時過ぎ）までの通い利用の延長を行っている為、ご家族様のご都合に合わせて、在宅介護サービスの利用が可能になっている。</li> <li>・地元の小学校との交流も盛んで、地域の方がたの協力もいただいている。</li> </ul>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ナルク神奈川県福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年2月21日	評価機関 評価決定日	平成25年3月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇2階に設置法人の高齢者住宅が併設されており、地域住民が当該住宅と当小規模多機能事業所に契約することにより、身近に訪問・通いのサービス（含、食事提供）を受けることができ数名の住民が利用している。                  ◇併設のデイサービスと共用のパワーリハビリ設備を活用して、歩行、筋力など機能維持訓練をしている。この結果、要介護2から要支援2に改善した利用者がいる。                  ◇地域との交流が活発であり、地域の行事（どんと焼き、祭りなど）に利用者が参加し、夏祭りなどの事業所の行事には、近隣住民が参加している。ボランティア（演奏、フラダンスなど）を受け入れ、また、近隣の小学校生や幼稚園児が訪問して利用者とは交流している。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇利用者の安全を最優先にして、職員は事業所内の整理整頓と見守りに徹している（例：転倒防止対策として、全ての椅子の脚に滑り止めのゴムキャップをはめ、利用者の動線上には物を置かず、また、利用者の一寸した所作にも職員は絶えず注意し見守っている）。                  ◇花見やドライブを兼ねた夕食レクリエーションを月2～3回行い、また、食事には、季節感のあるメニューを取り入れ、職員と行きつけの店に出かけるなど、利用者の生活に変化をつけると共に満足度向上を目指している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵真鶴
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・管理者と職員は話し合いを行い、サービスに反映出来るような事業所独自の理念づくりを現在行っている。	・「自由な時間、安全でかゆい所に手が届くケア、地域や家族との交流、健康で自立した毎日」を理念とし、事務室に掲示している。 ・職員はスタッフ会議やケアカンファレンスで理念を実践に反映すべく話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ご利用者様の知人や商店の方が連絡を取り合い、気軽に交流されている。事業所としては自治会に加入し、祭りなどに積極的に参加をしている。また、地元の小学校からの訪問等もある。	・自治会に加入し、利用者は地域の行事(どんと焼等)に参加している。 ・ボランティア、小学生、幼稚園児たちが事業所を訪問して利用者とは交流し、また、地域の人やケアマネージャーを事業所の行事に招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民が買い物帰りなどに気楽に立ち寄ってくれるホームを目指している。 毎月の白寿庵ニュースを発行して、利用者様やご家族に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月ごとに自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表、民生委員、当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービス向上に活かしている。	・町内会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員をメンバーとして、3か月ごとに開催している。 ・事業所の取組みについて説明し、サービス向上について意見交換している。例：昼食と夕食の献立がダブらないように要望があり対応した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	真鶴町役場は身近な存在なので、困難事例など相談に行っている。	・泊まり日数の延長の相談など、町役場の職員とは、密に連携している。 ・町内の事業所連絡会に参加して、役場の職員や事業所間で意見交換し、介護行政に関する情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアについては、マニュアルもあり、また、委員会を作り常に職員が意識できる環境を作って取り組んでいる。	・身体拘束禁止マニュアルがあり、拘束禁止に関する委員会がある。 ・職員は、言葉のかけ方やベッドの柵など同委員会やスタッフ会議で、拘束につながるケアについて話し合い、サービスに反映している。 ・玄関は安全上施錠している。事業所内は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記。虐待、拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、外部・内部各研修への積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかり説明し、納得をいただいた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日常生活の中で、利用者やご家族と職員が信頼関係を築き、それぞれが自由に意見を言えるよう努めている。	・事業所における日常会話、通いの送迎、居宅訪問、連絡帳、家族からの電話などを通じて、家族や利用者の意見を把握している。 ・把握した内容は職員ノートに記載し、ケアに反映している。(例：体調不良対応、薬の変更など。)	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの中で、意見交換等は行われている。	・職員は、どうしたら利用者が気持ち良く過ごせるかを、常に考えて行動し、スタッフ会議でケア方法を話し合い、申し送りで意見を出し合っ て、実務に反映している。 (例：事業所内の整理整頓、外出や外食の計画など)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務実態については、代表者は毎月把握しており、スタッフ会議等 出される要望についても、検討し回答するなど、環境整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、職員が計画的に外部の研修を受けられるように体制を整えている。また、社内に研修センターがあり、それぞれの立場で育成を行う取り組みが確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・真鶴町の事業者連絡会に参加し、ネットワークを作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きするなど「傾聴と受容」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の一番困っている事、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極め助言している。情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各利用者の得意だったことを教えてもらったりして支えあい、些細なことでも目標を持って取り組むようにし、それができた時は職員とともに喜びを分かち合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族も一緒に行事に参加していたき、共通の話題を持つ機会を設けている。 ・連絡帳を利用し、ご家族とのコミュニケーションに役立てている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切のしてきた友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。	・利用者の知人や友人、親族が気軽に事業所を訪問できるように支援している。 ・利用者が、馴染みの店に買い物に出かけるときは、職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで交互に交流できるよう職員が配慮している。 気の合った仲の良い利用者同士で外出時散策したり、席の配慮を行うなど声かけに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用を終えたご利用者様のご家族やご本人の相談にも、積極的にのっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から利用者それぞれの思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難な利用者についても、職員の意見や家族の意向からくみ取るようにして、情報を共有している。	・アセスメント、送迎時の家族の情報、利用者との日常会話などから、利用者の思いを把握している。 (例：外食、外出などの希望、ケア方法に関する意見など) ・思いや意向の表明が困難な方には、表情や仕草から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・親族や利用者から生活歴や暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、一人ひとりの1日の過ごし方を一緒に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の残存機能を活かした自立支援に向けてカンファレンスを毎月開催している。	・家族の意向、かかりつけ医の意見を把握し、毎月、全職員が参加するケアカンファレンスを開催して検討し介護計画を作成している。 ・介護計画は、項目により半年、状況により1年ごとに見直し、また、必要に応じ期間中でも見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個別に記入し、職員同士上方を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、地域包括支援センター、地域住民、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・サービス開始以前のかかりつけ医に継続して掛かってもらっている。家族の依頼により、通院の支援を行う事もある。	・利用者が、入所前からのかかりつけ医での受診を支援している。 ・かかりつけ医への通院は家族が行うが、家族の依頼があれば、事業所の職員が通院の支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について、気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にし、早期退院に向け情報交換、相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取り組めるよう努力している。 ターミナルケアに関してのマニュアルがあり、職員は研修を受けている。	・設置法人のターミナルケアマニュアルがあり、職員はターミナルケアの研修を受けている。 ・重度化した場合は、かかりつけ医や関係医療機関、家族と連携して適切に対応する体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は応急手当や初期対応について研修を行っており、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練や職員による消火器取り扱い訓練が実施されている。 非常時にすぐ駆け付けられる職員が多数在住している。	・年2回（1回は夜間を想定）、利用者が参加し、消防署員が指導を得て避難訓練を行っている。 ・スプリンクラーが設置済みで、火災報知機は消防署に直結している。 ・水、非常食の備蓄を2日分確保している。	・今後も、消防署員の参加を得て消火器の扱い方、利用者救出方法などの指導を受けることを期待します。 ・備蓄品リスト（内容・量・期限）を作成、管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者に対して、利用開始時契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。 また、職員は自尊心を大事にした言葉かけをしている。	・入社時に、職員は個人情報の取り扱いにつき誓約書を提出し、マニュアルで研修している。 ・利用者の自尊心、羞恥心を大切に丁寧な言葉かけに心がけている。 ・書類は事務所内の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など、じぶんの思いを表わせるよう働きかけ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者は自分のペースで過ごして職員はそれとなく見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 また、理美容は本人の望むようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者には、下ごしらえを手伝ってもらっている。また、希望に沿った食事を提供できるよう調査を行っている。	・献立作成と食材調達は業者に委託し、調理担当職員が調理している。 ・料理レクでは、利用者がパンやどら焼き作りなど、料理に参加して楽しんでいる。 ・料理の下ごしらえや、後片付けを職員と一緒にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の状態を常に観察し、また今までの習慣を家族にお聞きして水分量や食事量を適量確保できるよう支援している。</li> <li>ご利用者様の希望に応じて外食に行ったりする。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の排泄パターンをつかみ、誘導することにより極力紙おむつの使用を避けている。また、失敗したときにもプライドは傷つけないよう配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄チェックリストを活用して、時間やタイミングを計り、羞恥心に配慮しながら介助している。</li> <li>トイレ介助は、利用者の希望によって同性介助も行っている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者がなるべく身体を動かし、繊維質の多い野菜中心の献立にするなど工夫している。水分補給にも心がけている。</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のタイミングに合わせて入浴していただいている。ゆず湯や菖蒲湯など、季節の行事を大切にしてお好みの入浴剤、湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴は週2回で、希望があれば回数や時間は、要望に沿っている。</li> <li>入浴時は、職員と会話をしながら気分転換を図り寛いでいる。</li> <li>入浴剤や、柚子湯・菖蒲湯で季節感を楽しめるように工夫している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により休めない利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は、個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者の生活歴や能力に応じて、張りのある生活が出来るよう、ボランティアの方の協力を得て、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、散歩や買い物に出かけている。月に1回くらい、外食や公園等にドライブを兼ねてでかけている。	・日常の散歩の他、月1回は花見や苺狩り・美術館等の外出レクを実施し、可能な場合は家族がボランティアとして付き添っている。利用者は外出レクを楽しみにし、利用日を変更して参加する場合もある。 ・病院の受診や銀行、買い物、理髪店には、職員が付き添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者は、個々にお金を所持しており、地域の祭りなどで好きな買い物ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持ち、家族と連絡を取り合っている方もいる。手紙も自由にやり取りできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにおいて利用者は、TVをみおたり、談笑して思い思いにくつろいでいる。飾り等で季節感が出せるよう工夫している。	・リビングは明るく清潔であり、季節感のある手作りカレンダー、お雛様、桜の花びら作品などの飾り付けている。 ・利用者はテレビを見たり、利用者同士で気ままに会話し、楽しい時間を過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者が思い思いの時間を過ごす事が出来るように、しかし孤立することがないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室は、自宅にて過ごされた環境に少しでも近づけるよう配慮している。	・居室には、ベットや布団、エアコン、チェスト、ナースコールが備品として設置している。 ・利用者は、着替えや日常生活の必需品の他、馴染みの物や携帯電話などを自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手摺の設置は無論のこと車いすやシルパーカーをしよう出来るよう工夫されている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ白寿庵真鶴  
小規模多機能居宅介護

作成日 平成25年4月20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	消防署員の参加を得て消火器の扱い方、利用者救出方法の指導を受けることを期待する。	年2回の避難訓練を定期的 に実施し、毎年消火器の扱い方等の訓練を消防署員から受ける。	3月に真鶴事業所において消防署員参加のもと、避難訓練を実施。本年度は、6月に事業所全体の避難訓練に加え、10月後半に夜間想定 の避難訓練を実施する予定。	1年
2	13	備蓄品リスト（内容・量・期限）を作成、管理する事を望みます。	備蓄品リストの作成・管理の徹底	環境整備委員会の一環として、現在の備蓄品の洗い出しを早い時期に行い、リストを作成。現状にあっているか否かの把握と共に追加すべき備品の購入を早急に行い、管理をする。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。